



前・長生村長

## 石井としお通信

[Http://www9.ocn.ne.jp/~tishii](http://www9.ocn.ne.jp/~tishii)

2012年10月 第93号

石井としお後援会

長生村七井土 1387-2

電話 090-3094-0321

# 「外出支援・福祉タクシー継続」決定

今年9月の平均気温は平年より2度高く、毎日寝苦しい夜が続きました。農家の皆様からは「今年は台風も来なく、米は豊作だった」と、朗報です。農業は長生村の基幹産業であり、うれしいことです。石井前村長は7月17日をもって一村民としての生活に入り、以降は後援会の東北津波被災地視察、後援会総会、ブドウ狩り、村議会傍聴などに取り組み、また、個人では東海第2原発廃炉要請活動、アイガモオーナー稲刈り、村恒例の海岸清掃などに参加してきました。



—野田村村長から説明—

## 被災地復興視察

7月22日～24日、後援会で東北津波被災地への視察を行いました。一日目は村が支援した野田村でした。副村長から

津波被害を受けた村全体を案内して頂き、鉄道や港の復旧は見たものの、新しく住宅を建設したり、道路工事を行ったりしている箇所はありませんでした。

宿泊した村営の国民宿舎では村長より「国の復旧への対応は遅い、私は500年先を見て、第3堤防を築き、海岸に近い部分は居住禁止区域とし、高台移転を決めました。」とのお話を伺いました。



—レールのみ復旧・三陸鉄道—

また「高台移転を含めて大都市での復興計画が進まない中、迅速な復旧、復興計画策定が住民との協働でできたのも住民一人一人の顔が見える自治体の規模(野田村も合併せず)であることが幸いでした。」とのお話しでした。長生村も顔が見える村ですから、協働の力は活かせると確信しました。



## いまだ復旧なし陸前高田

二日目は、緑豊かなリアス式海岸の断崖に沿って道路を南下し、大堤防が集落を守ったと新聞で報道された普代村を視察。そして、宮古市、大槌町、釜石市を経て、陸前高田市へと向かいました。車中から見る光景には呆然自失でした。瓦礫は片付いているものの復興はどれも手付かずの状態でした。

陸前高田市では事前に紹介してもらった方に災害当日の説明を受け、市内を案内してもらい一本松も見ました。津波は中心街一帯を飲み込み死亡者「1800人」。全壊で残った市役所の泥の積もった一階庁舎内には車が2台さびたまま転がっていました。駅舎もレールも、商店街もまったく残っていません。駅舎のあった空き地に暑い夏の光をあびてボランティアの方が植えた草花が元気に咲いていました。「災害に負けないで頑張るぞ」と訴えているようでした。

案内してくれた方も、駐車場でお話を伺った方も「親や子供を亡くした」と聞き心の中でご冥福をお祈りしました。一日も早い復興を願わずにはられません。

## 第11回後援会総会

7月28日、第11回石井としお後援会総会を開催しました。石塚哲男会長より「6月の村長選挙へのご支援ありがとうございました。今一步力足らずで惜敗しました。今後も後援会は解散せず活動を続けたい。」との挨拶を受け、ましご事務局長より一年間の活動報告と合わせて村長選挙の経過と報告、総括の提案がされました。



## 今後の活動方針

また、今後の活動は①石井としお後援会は存続する。②後援会発行の石井としお通信は今後も続ける。などを確認しました。

## 参加者からの発言

・外出支援サービスや福祉タクシーへの補助などの施策を存続してほしいので村に働きかけて欲しい  
・高校生まで医療費無料の施策が実現できずにとっても残念だ  
・もっと若い会員を増やす活動をしよう  
・後援会推薦議員には前村長の打ち出した村民のためになる施策の実現に全力で頑張ってもらいたい。



## 楽しかったブドウ狩り

8月25日、後援会主催で山梨県にブドウ狩りに行きました。朝5時に長生村を大型バスで出発し、夕方5時30分には戻ることができました。熟練のバスガイドさんは説明と歌がとても上手で大人気。ブドウは今年も農園主の丸山さんが丹精込めて作った巨峰でした。「今年は日照りが続き、最高の仕上がりですよ」。言葉の通り、畑のブドウはどれもみずみずしく甘く皆さんの笑顔と歓声がずっと絶えませんでした。

今回は、新しく参加された方が多かったのですが、皆さん直ぐにうち解け、新しい友人の輪がブドウ狩りを通じて広がりました。ご参加された皆様ありがとうございました。

## 原発・廃炉を要請

8月29日、平和への大結集と言う団体(共同代表・広瀬理夫)の20名で、東海第2原発・廃炉の要請に行き、原発責任者に私から文書を手渡しました。その後、参加者で原発資料館を見学しますと係員が付き添い「施設の写真はダメです。」

と、厳重なチェックでした。午後からは東海原発廃止訴訟をしている皆さんと意見交換を行いました。若いお母さんからは「原発賛成の人は原発がなくなったら村の財政は苦しくなると言うが安全のためにも原発はなくして欲しい」「子どもの将来を考えると黙ってはられない」とのことでした。



私は「財政については地方交付税制度がある」仕事は「原発を推進した国と東電が廃炉後の仕事探しまで責任をもつことです。」と意見を述べました。住民の生命・健康の安全が何よりも第一と考えるからです。

## アイガモ米・稲刈り

9月9日、猛暑の中、役場近くの田んぼに県内外からアイガモオーナーが集まり稲刈りを行いました。農家の皆さんの指導を受け、慣れない手つきで鎌を持ち「ひとかぶ」ずつ丁寧に刈り取っていました。アイガモの放鳥式から始まり秋空の下、本日の嬉しい収穫です。今年一年アイガモ米がオーナーの皆さんと長生村を結ぶ絆となってくれました。農家、役場職員、オーナーの皆様、お疲れ様でした。



## 9月議会開かれる

9月19日～21日にかけて議会が開かれました。一般質問は9人でした。執行部から副村長に田中孝次、教育委員に齊藤有芳氏への人事案が提案されました。副村長田中孝次氏へは「3人が賛成せず、他の全議員は賛成。」教育委員の齊藤有芳氏は「全員賛成」で決まりました。幸福の科学所有地への課税問題では関議員の「大学建設用地は過去5年間にさかのぼり、課税すべきだ」に対し、小高村長は「課税する考えで弁護士と協議中」との答弁でした。今後を見守りたいと思います。

### 議会傍聴感想記

石川議員は村財政健全化への石井前村長の実績を念頭に新村長も健全化に取り組むよう要請する質問。ましこ議員は外出支援サービス、福祉タクシー事業の継続の質問に、村は「継続する」答弁を引き出し、山口議員はいじめ問題などを質問しました。持ち時間60分の内、9割以上を自説披露する議員もいたが、その他の質問議員は概ねよく調査・研究していて村民のために仕事をしていると感

じました。驚いたのは二日間の一般質問中「一度もメモも記録も取らない・腕組みして目を閉じっぱなし、うつむいて居眠りを繰り返す」何人もの議員の姿だった。これってアリ？驚きました！（高根本郷H）

## ウソとデマは許せない

6月の村長選挙で小高陣営が流したウソとデマ「幸福の科学から石井村長がお金を貰った。」と、言う話が、まだ聞こえます。事実は業者からの盆暮れ付け届けまで廃止した石井村長。金品など一切貰ったことはありません。ウソとデマを流すことは許せない。小高陣営の選挙違反行為こそ処罰されるべきです。

### 編集後期

①今夏も電力不足が心配された中、大飯原発が国民の反対を押し切って、再稼働されました。夏が終わってみれば、国民の節電意識に支えられ電力不足による停電は一度もなかった。原発は事故だけでなく、使用済み燃料(核のゴミ)を捨てる場所が日本にないことです。20万年先まで猛毒の放射線を出し続けます。子々孫々にまで悪い影響が及ぶ原発は止め自然エネルギーに転換が必要です。

②9月議会で村民より一般質問の録音申請をしたが、またも「不許可」でした。一宮町では庁舎内の職員に同時放送。睦沢町では役場庁舎の休憩室で同時テレビ放映しています。他町同様録音の許可はすべきです。